

# 第4学年 道徳学習指導案

2組 計23人(男子11人,女子12人)  
 指導者 T1 平田秀司  
 T2 東郷道成

1 主題名 大切な友達だから (2-(3) 友情・信頼,助け合い)  
 読み物資料「いのりの手」(学習研究社4年)

## 2 主題について

### (1) 内容項目とその系統

【低学年2-(3)】 友達と仲よくし,助け合う。
【中学年2-(3)】 友達と互いに理解し,信頼し,助け合う。
【高学年2-(3)】 互いに信頼し,学び合って友情を深め,男女仲良く協力し助け合う。

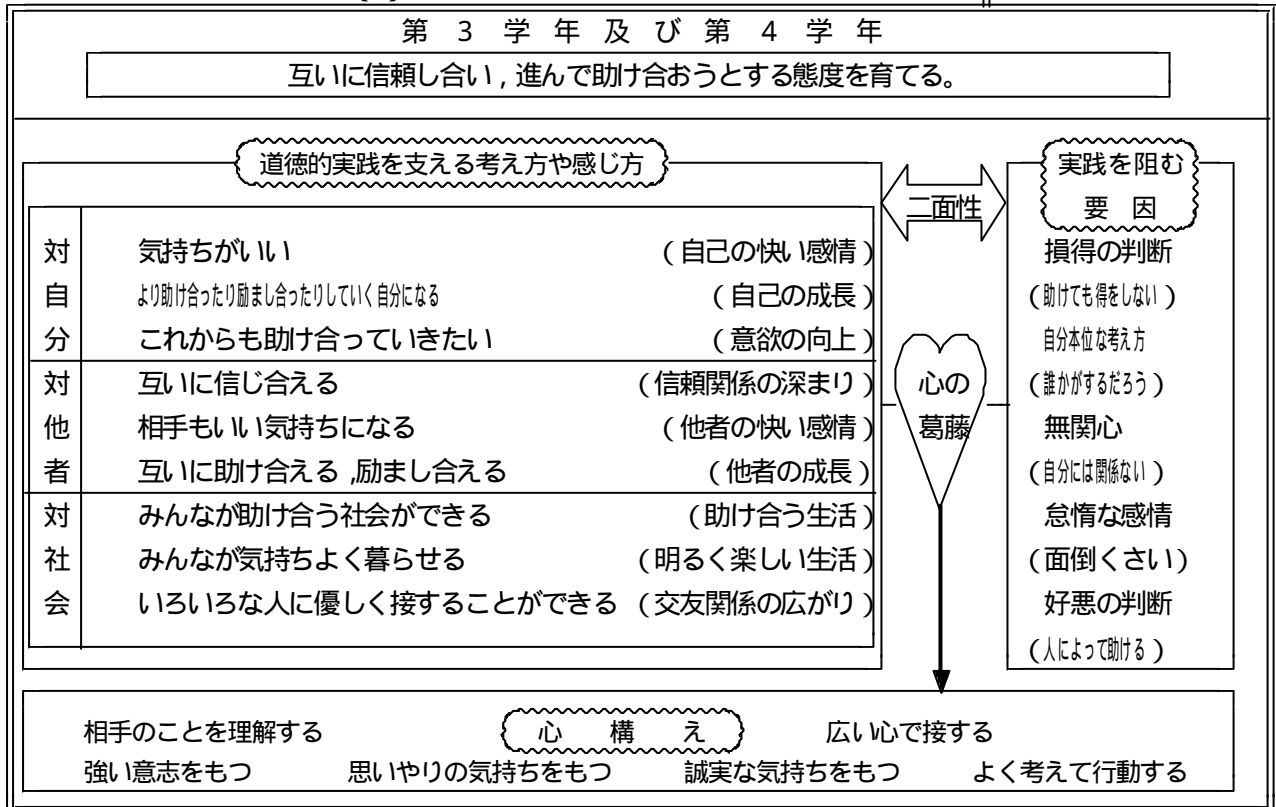
### (2) 指導内容についての基本的な立場

「友達と互いに理解し,信頼し,助け合う」とは,友達と信頼関係を築き,助け合う精神をもつことであり,人間がよりよい社会生活をおくるための基盤となるものである。

この期の子どもたちは,社会性の発達により「友人」という存在を意識し始め,自分が一緒に何かをしたいと思う相手,一緒にいて楽しく気が合う相手が友達だと思ふようになり,仲間集団が形成されていく。また,その集団において,自分たちで目標達成に向けて努力したり,ルールや決まり事を作ったりするなど自主性も発達していく。しかしながら,些細なことで集団内の関係が崩れてしまったり,損得の判断や自分本位な考え方で行動してしまったりするなど,望ましい友達関係や信頼関係までは至っていない状況にある。

そこで,本主題では,友達同士が互いに信頼し合うことの良いさを感じ取ることができるようにする。そして,自分の友達について見つめ直すことで,よりよい友達関係を築くことの大切さに気付くようにする。これらのことにより,互いに信頼し合うことの良いさを感じ取り,進んで助け合おうとする態度を育てることをねらいとする。

### (3) 本主題の指導内容及び道徳的価値の構造

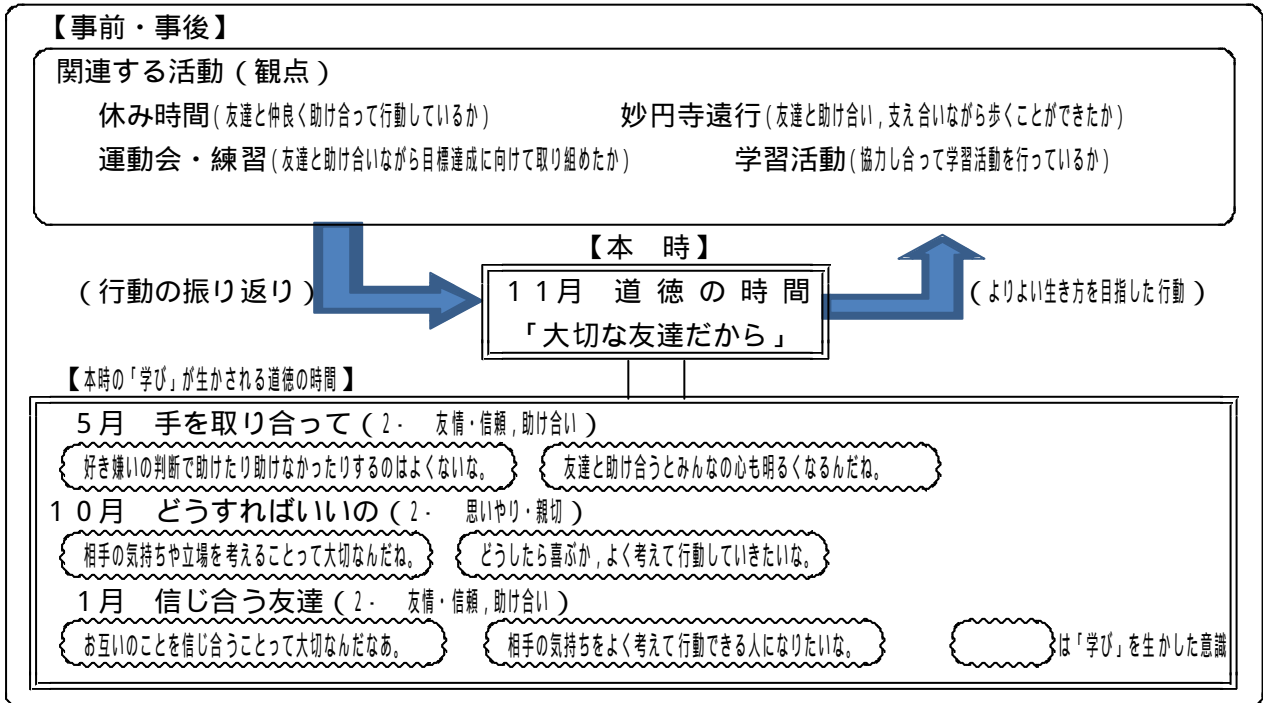


( は重点項目)

【友情・信頼，助け合いに関する「学び」の系統】

友達と仲良くし，助け合うことができる子ども			
高学年 期	<b>道徳性に関する発達</b> 先を考えて行動することができるようになってくる（見通しをもった行動） 性別を認識せず，相手のことを考えて行動できるようになる。（他者理解の成長） 自己の欲求を抑えて行動できるようになってくる（忍耐力の成長）	<b>心の弱さ</b> 周囲の視線が気になり，自分の気持ちをつまかく表すことができない（羞恥心） 自分の価値判断に基づき行動してしまう（価値観の画一化）	<b>大切にしたい心構え</b> ・相手の立場や気持ちを理解して行動する。 ・寛大な心をもって友達と接する。 ・我慢強い心をもつ。
	相手や集団の事を考えて行動できる（社会性の成長） 行為に対して，内省することができるようになってくる（反省能力の成長） 自分の価値観で交友関係を広げる（社会性の発達）	他人の意見に流されてしまう（主体性の欠如） 男女が互いに意識し始め衝突し合う（性意識の芽生え） 相手によって態度や行動をかえてしまう（好悪の判断）	・相手のことを理解する。 ・思いやりの気持ちをもって，広い心で接する。 ・よく考えて行動する。 ・強い意志をもつ。 ・公平な態度で接する。
	よいと悪いことの区別がつくようになってくる（善悪の判断） いろいろな友達と仲良くしようとす（好奇心の成長）	誘惑に負けてしまう（自己中心的な考え） そのときの気分で行動してしまう（思慮不足）	・相手の気持ちを考える。 ・自分勝手なことをしないようによく考える。 ・やさしい気持ちをもつ。

【友情・信頼，助け合いに関する「学び」の関連】



【資料について】

ハンスとデューラーという仲良しの二人がいた。二人とも絵の才能があり，勉強がしたいのだが，金銭的に二人一緒に学ぶことはできなかった。そのため，どちらかが絵の勉強をしている間に，もう一方が働いて金銭的支援を行うことにした。先にデューラーが勉強を始めるが，なかなか勉強が進まない。数年経って勉強を終えてハンスと交代しようとするが，ハンスはもう絵筆を握れない手になっていた。ハンスに対する思いをデューラーは絵に表した。

### 3 子どもの実態

(調査人数23人 重複あり H20. 9.29)

(1) 本主題に関する経験場面		(2) 本主題に関する経験の理由	
友達を助けたりやさしくできたりした経験	人数	できた理由	人数
・ 困っている時に助けたり手伝ったりしてあげた	22	・ かわいそう、心配だから	21
・ 優しく接することができた	8	・ 相手が喜ぶから	7
・ 忘れ物をした友達に貸してあげた	5	・ あたりまえのことだから	6
・ 一人にいる子に声をかけたり遊んであげたりできた	5	・ 自分がうれしいから	4
・ けんかをしてもすぐに自分からあやまった	2	・ 相手のことを考えたから	4
・ その他(注意した、送ってあげた、アドバイスした等)	各1	・ なんとなく	2
(3) 本主題に関する経験場面		(4) 本主題に関する経験の理由	
友達を助けなかつたりやさしくできなかつたりした経験	人数	できなかった理由	人数
・ 困っている友達に何もしなかった	18	・ 他にしたいことがあったから	12
・ 悪口を言った	6	・ 頭にきたから	10
・ 無視した	5	・ 先を考えてなかったから	6
・ けんかをした	3	・ 面倒だったから	2
・ うそを言った	1	・ 怖いから	1
(5) 道徳的価値の意義		(6) 道徳的価値に対する心構え	
友達と信頼し、互いに助け合うことはなぜ大切か	人数	友達と信頼し、互いに助け合うための心構え	人数
・ 自分がうれしくなるから	21	・ 強い意志をもつ	15
・ 相手やみんながうれしくなるから	20	・ 優しい気持ちをもつ	10
・ すっきりするから	10	・ 相手のことを考える	5
・ 互いにもっと助け合えるから	8	・ 誠実な気持ちをもつ	3
・ 自分が成長するから	7	・ 親切にする	1
・ 相手やみんなが仲良くなるから	5	・ 責任感をもつ	1

#### 【考察】

学級すべての子どもが、日常生活の場面で友達を助けたり優しくしたりすることができた経験をもっている。また、前回の「友情・信頼、助け合い」の授業における実態と比較すると、できた経験が多様に広がっていることが分かった(研究誌別冊参照)。その理由として、「かわいそうだから」、「相手が喜ぶから」といった相手の立場や気持ちを考えてのものが多く見られ、「自分がうれしいから」といった自己の快い感情を理由を挙げた子どもも見られた。しかしながら、「他にしたいことがあったから」といった自分本位な考えや、「頭にきたから」、「先のことを考えていなかったから」といった思慮不足などの理由から、助けることができなかった経験もほとんどの子どもももっている。ただ、今回の実態では「あまり好きではないから」といった好悪の判断による理由は見られなかった。これは、前回の授業で相手を好悪の判断で見ないことの大切さを実践に生かしているものと考えられる。

友達と助け合うことの意義については、前回同様の反応が見られたが、回答数は増えている。しかし、助け合うための心構えについては、「優しい気持ちをもつこと」、「相手の気持ちや立場を考えること」が大切であると答えていたものの、回答数は前回よりも目立った増加は見られなかった。これらのことにより、友達と信頼し合い、互いに助け合うことの大切さを理解していながらも、その実践における心構えについての広がりや深まりは十分でないことが分かる。

そこで本時では、大切だとは分かっているがなかなか実践できない、相手の気持ちや立場を考えるための心構えについて深く考えることを大切にしながら、友達と互いに信頼し合い、進んで助け合おうとする態度を育てる必要があると考える。

#### 4 本時

##### (1) 目標

友達と互いに信頼し合い、助け合おうとする態度を育てる。

##### (2) 指導に当たって(研究の視点との関連)

以上の子どもの実態や主題のねらいを踏まえ、次のことに配慮して指導していく。

TTの授業形態を行うことで、子どもたちが一人の登場人物に焦点を当て、時間をかけて考えることができるようにする。その際に、子どもの実態や教師から見た行動を基に「助けた」「助けられた」と意図的にグループを形成することで、子どもたちの「学び」を効果的に生かすことができるようにする。

子どもたちが自分の考えを話す際に、経験を引き出す問い返しや根拠を問う発問の工夫を行うことで、自分の経験を引き出しながら考えることができるようにする。

「自分づくりカード」を「気付く」「深める」過程で活用し、自分の経験を振り返ったり、価値の自覚化を図ったりする際に子どもたちの考える手がかりとなるようにする。また、自分の考えをカードに書き込むことで、友達と互いに信頼し合い、助け合うことについて自分の見方・考え方・感じ方の広がりや深まりを視覚的にとらえることができるようにする。

過程	主な学習活動と予想される子どもの反応	T1	T2	教師の指導
(分) 気付く (5)	<p>1 信頼しなかったり、助けなかったりなど、友達を大切にできなかった経験について話し合う。</p> <p>つい、かっとなって友達に悪口を言っちゃったなあ。</p> <p>友達に注意されて頭にきたことがあるなあ。</p> <p>友達をより大切にするためにはどんな気持ちが必要だろう。</p>	進行	板書	<p>「自分づくりカード」を基にしながら、友達と助け合うことができなかった経験を話し合うことで、本主題にかかわる課題意識をもつことができるようにする。</p>
見	<p>2 資料「いのりの手」を読んで、登場人物の気持ちを中心に話し合う。</p> <p>(1) 感想を発表し合う。</p> <p>(2) ハンスとデューラーのそれぞれの気持ちについて考える。</p>	範読	机間指導	<p>T1が判読している間に、T2は、子どもたちが登場人物のどの場面で共感したのかを机間指導を行い、T1に伝えることで、資料の焦点化を効率的に行うことができるようにする。</p>
つめ	<p>ア ハンスとデューラーの別れの時 (一斉)</p> <p>【デューラー】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>先に勉強させてくれてありがとう。</li> <li>一生懸命がんばってすぐに戻るよ。</li> <li>がんばって、早く一人前になるぞ。</li> </ul> <p>【ハンス】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>デューラー、絵の勉強がんばろうな。</li> <li>お金のことは心配しなくていいよ。ぼくが働くから。</li> </ul> <p>3年経っても絵の勉強が終わらなかったとき (T.T.)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>なかなか進まなくて本当にすまない。</li> <li>ハンスに悪いなあ。もう絵の勉強はあきらめようか。</li> <li>もう少し勉強させて欲しいなあ。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>勉強がんばってね。ぼくは仕事をがんばるよ。</li> <li>早くかわってくれないかなあ。</li> <li>ぼくも早く絵の勉強したいなあ。</li> </ul> <p>ここまでの二人の生き方について、考えたことを発表しましょう。</p>	進行	板書	<p>ハンス、デューラーそれぞれの気持ちについてT1・T2の進行の下、話し合うことでそれぞれの登場人物の心情や行動についてより深く迫ることができるようにする。</p> <p>3年経っても交代できない場面では、心情図を用いてそれぞれの思いを考える。その際に、色の割合について教師が問い返すことで、自分の経験を想起しながら考えることができるようにする。</p>
(30)	<p>ウ デューラーの絵の勉強が終わって、二人が出会ったとき (一斉)</p> <p>(3) 「いのり手」を描いたときの二人の気持ちについて考える。(一斉)</p> <p>なぜデューラーはハンスの手を絵に表したのかな。また、ハンスは絵を見てどんなことを考えたかな。</p> <p>ハンスに対する感謝の気持ちで描いたのかな。</p> <p>ぼくをモデルに描いてくれてありがとう。もっと勉強がんばってね。</p>	進行	板書	<p>友達を信頼し、助け合うことの大切さを考えることができたか。【ワークシート、自分づくりカード参照】</p> <p>「自分づくりカード」を基にしながら、大切な心構えや気持ちについて考えることで、自らの道徳的価値について、多様な側面から考えることができるようにする。</p>
深める (8)	<p>3 これまでの自分を振り返って、友達を大切にすることについて考える。</p> <p>これまでの自分の経験を振り返って考えてみよう。どんな心構えや気持ちがあったら、友達を大切にできたのかな。</p> <p>友達から注意されて頭にきたけれど、ぼくのことを考えてくれたんだなあ。</p> <p>相手の気持ちや立場を考えたから、困っている友達を助けてあげられたよ。</p>	進行	机間指導	<p>具体的な例を基に考えることで、本時の道徳的価値に関する考えに広がりをもつことができるようにする。</p>
高める (2)	<p>4 教師の話を聞く。</p> <p>先生も友達とそんなことがあったんだね</p> <p>もっと友達のことを考えて行動していきたいな。</p>	進行	板書 話し	<p>T2の話を聞くことで、友達を大切にすることのよさを感じ、本時の実践意欲を高めることができるようにする。</p>